

2XXX年、いつかは起きる？大地震

その時、豊中市は…

大きな被害をもたらした阪神・淡路大震災。なかでも、一人暮らしをしていた高齢女性が多く亡くなったのをはじめ、さまざまな状況にある女性たちが多くの困難にぶつかる実態が浮き彫りになりました。

豊中市周辺にはいくつかの活断層があり、なかでも「上町断層帯」は今後30年以内の地震発生率が高く、甚大な被害をもたらすともいわれています。

記憶が薄れつつある今だからこそ、「震災と女性」について考えてみませんか。

※活断層・・・数十万年前から繰り返し活動し、今後も活動して地震を引き起こす可能性がある断層。

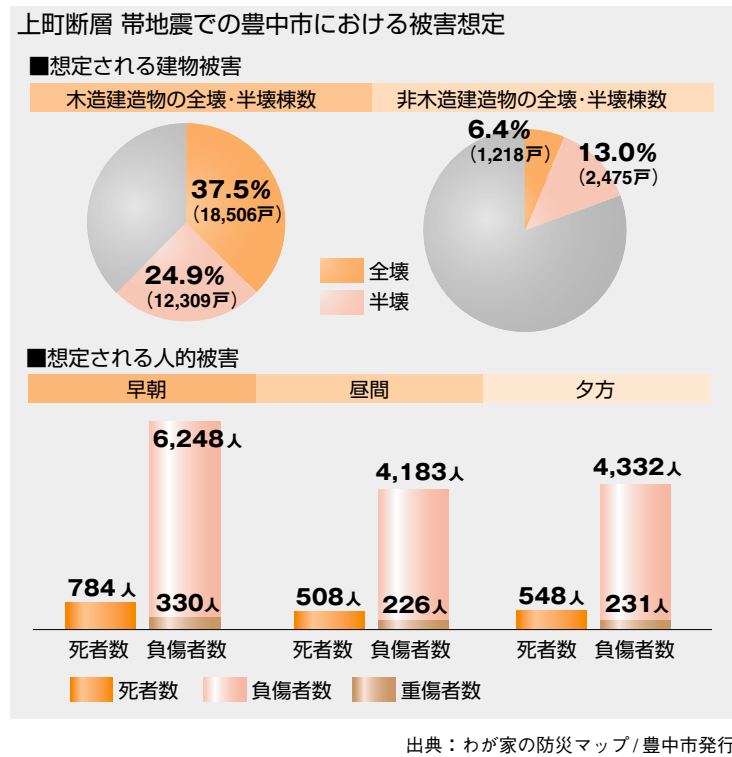
阪神・淡路大震災の被害と教訓

淡路島北部を震源とした阪神・淡路大震災は、マグニチュード7.3、最大震度7の大都市直下型地震でした。マスコミ報道は神戸の被災の状況が中心でしたが、豊中市でも死者9名、負傷者2,496名にのぼりました。建物被害は35,614棟、65.854世帯を数え、多くの方が避難生活を余儀なくされました。一部地域では公共施設の損壊やライフラインの寸断にも見まわれました。

ふだんは安全で便利に見えるまちが、ひとたび地震に見まわれると、もろさがあらわになります。阪神・淡路大震災の被害から、急激な都市化が進む一方で老朽化した住宅や入り組んだ路地が置き去りにされてきたことや地域コミュニティの希薄化といった課題が見えてきました。

想定される被害

上町断層帯地震では豊中市全域で震度6弱以上、一部地域では震度7の強い揺れが予測されます。また、東南海・南海地震では全域が震度5弱から震度6弱と予測されています。最も大きな被害が想定されるのは就寝中の時間帯である早朝です。けれども日中は仕事や学校で家族が離れていることが多く、夕刻は通勤・通学の時間帯であり、夕食の準備で火気の使用率が高いなど、巨大地震が発生すればどんな状況にあっても生命そのものが危険にさらされます。



行政も被災する。いざという時は地域の支え合いが命綱 (豊中市危機管理室)

毎年どこかで大地震が起こり、その怖さを感じてはいても、忙しい日常生活のなかでは防災の優先順位が低くなるのは無理ありません。ただ、大規模地震時には市役所もみなさんと同じように被災することや閉庁時に地震が起きる可能性があることを念頭に防災を考えてください。平常時には消防や救急は行政の仕事ですが、同時多発的に発生する火事や多数の負傷者すべてに対応するのは不可能なものです。地震が起これば職員が役所に集まるのも困難なうえ、行政も被災するということを前提にした備えが必要です。

阪神・淡路大震災で亡くなった6,434人(女性3,699人、男性

2,724人、不明11人)のうち、建物の倒壊や家具の転倒が原因で亡くなった方は約4800人^{※1}にのぼるとされています。圧死はもちろん、長時間にわたって体が圧迫されることで死に至るクラッシュ症候群も少なくありませんでした。被災現場では倒壊家屋からの救出をはじめ、一刻を争う場面が多くあります。その時、地域の助け合いが命綱になります。災害に備えて新たなシステムやネットワークをつくるより、ふだんから声をかけ合う関係を築いておくほうが非常時にもネットワークとして生きてくるはず。日常生活のあり方を見直すことから防災を始めてみてください。

※1 出典：消防庁データ
※2 出典：警察白書

阪神・淡路大震災で、女性たちは…

“その時”を境に変わる生活、人生…

数十秒の地震は私たちの生活を大きく変えてしまいます。阪神・淡路大震災でも多くの方が大切な人を亡くし、住む家や生活を支える仕事を失いました。兵庫県立女性センターの窓口には震災直後から悲痛な相談が寄せられました。「毎日新聞『毎日 希望新聞』」に連載されたものをご紹介します。

「地震で両親を亡くした姪を預かっています。部屋に閉じこもり、食事もありとらないのが心配で…」

「地震直後、私の名前を呼ぶこともなかった夫。後始末も手伝わない。つくづく嫌になり、別れようかと思っています。」

「一人暮らしをしていた夫の母の家が全壊。長男である夫は引き取ると言いますが、私はちゅうちょしてしまいます。」

「地震後、おむつがとれていた娘がおもらしをするように。私の後ばかりを追うようにもなり、困っています。」

「借家が壊れたのでマンションへ移りました。周りはお年寄りばかりで気を遣うのに、3人の子供は走り回ってけんかばかり。イライラして、つい手をあげてしまいます。」

「アパートが全壊したので避難所にいます。お酒を飲んで、からんだりいやらしい言動をする男性がいて、みじめな思いをしています。」

「地震直後、せびよってくれた友人の家でお世話になりました。何とか住めるようになったので自宅に戻りましたが、友人と気まづくなってしまいました。」

「被災直後は職場に迷惑をかけないよう精一杯がんばりました。ところが最近では失敗ばかり。まだ立ち直れないのかと言われ、つらくてたまりません。」

「同じように被災した友人は、前向きで仕事にも行き始めました。でも私は積極的に何かをしようという気になれず、友人の誘いにも気が乗りません。」

「裏の家が全壊しました。解体の際にわが家の塀の一部が壊されました。うちの被害が少ないという申し訳なさもあり黙っていますが、相手からひと言もないのが腹立たしい気がします。」

「地震で勤務先の事務所が閉鎖。遠隔地への転勤を申し渡されました。でも交通事情や家のことを思うと決心がつきません。」

「離婚後、パートをしながら子どもを育ててきました。住んでいた家は全壊、職場も解雇。雇用保険にも入っていなかったため途方に暮れています。」

「震災後、やむなく解雇となりました。なかなか思うような仕事がありません。保険もやがて切れると思うと焦りが募ります。」

「出産後は育児に専念しようと退職した直後に被災。夫の会社は倒産しました。出産後も働くことにしましたが、これからの生活が不安です。」

「離婚後、小さな職場でがんばってきました。震災後、交通機関がない時に車で送ってもらった職場の男性につきまとわれてとても困っています。」

「家も焼け、何もかもなくした。この先、何の楽しみもないと思うと、生きていく気がしません。」

「近所はほとんど壊れなかったのに、私の家だけが半壊。なぜうちだけが」と思うと惨めでたまりません。」

「家の修理も済み、生活はほとんど元どおりに。けれどいまだに窓ガラスの震える音に動悸がして、自分が情けなくて仕方ありません。」

「仲の良い友人は皆、被災しました。集まると震災の話になり、被災しなかった私は取り残された気分が、溝ができたように思えます。」

「50代のおばはずっと独身で、元気で一人暮らしをしていましたが震災でアパートは傾き、職場も解雇されたそうです。次の仕事もなかなか見つからず、落ち込んでいるのでとても心配です。」